



週 報

Rotary
東京本郷ロータリークラブ



2018-2019 年度 国際ロータリーテーマ 「インスピレーションになろう」

東京本郷ロータリークラブテーマ 「Action! & Smile😊」

創立/平成 3 年 3 月 13 日 (1991 年)

事務局/〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-9-6-905 電話: 03-3238-5350 FAX: 03-3238-5352

インターネットホームページ: <http://www.t-hongo-rc.gr.jp> E-mail: office@t-hongo-rc.gr.jp

例会: 毎週水曜日 12 時 30 分 例会場: ホテルメトロポリタンエドモント 電話: 03-3237-1111

〒 102-8130 東京都千代田区飯田橋 3-10-8

会長: 山路敏之 副会長: 本郷 滋 会長エレクト: 井田吉則 幹事: 秋本康彦 会報委員長: 小野澤亮介

9 月 5 日 第 1288 回例会

2018 年 9 月 5 日発行 (No. 1237)

本日の卓話

「チームスポーツから学ぶ
～新時代のチームワークとは～」

株式会社 Humanergy

代表取締役 福富 信也 様

紹介者 三浦謙吾会員

次回の卓話 (9 月 12 日)

「ブラインドサッカーの実話の映画
プロジェクト」

ブラインドサッカー元日本代表主将

落合 啓士 様

日本ブラインドサッカー協会

プロジェクトパートナー 上田 晋 様

紹介者 星野大記会員

8 月 29 日 第 1287 回例会報告

ビュッフェ例会 and ショートスピーチ



幹事報告

1. 9 月のロータリーレートは 1 ドル=112 円となります。

出 席

会員数: 48 名 欠席出席免除者: 3 名 出席数: 37 名
欠席数: 8 名 出席率: 82.22%
8 月 8 日修正後出席率: 82.22%

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

ニコニコBOX

* 小野澤亮介会員

家内の誕生日祝いを頂戴しまして有難うございました。先週は 2 泊 3 日で尿管結石の手術をしました。経過は良好ですがトイレが近いです。

* 米倉伸三会員

8 月 21 日 22 時 10 分に母が 96 年の生涯を全ういたしました。皆様のご厚情に感謝申し上げます。葬儀は 27・28 日に家族葬にて滞りなく済ませました。当クラブよりご供花をいただきありがとうございました。

* 清水卓治員

澤部さん、いろいろありがとうございました。

***長久保スミ子会員**

忘年家族会の出席とご家族の皆様の参加、何かアイデア等、是非9月3日迄に出して頂きたくよろしくお願い致します。

***齋藤陽彦会員**

誕生日祝い、ありがとうございます。

ニコニコBOX	28,000 円
累 計	228,000 円

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

海洋生物とフィリピンの漁村の人々の生活を救ったロータリー歯車形の人工サンゴ礁

ロータリー Web (<https://www.rotary.org/>)
ニュース・特集記事より

ラモン湾の静かな青い海。その底に、地元漁師の誇りとロータリーへの感謝を示すかのように、ロータリー歯車形の巨大な人工サンゴ礁が見えます。

1990年代の終わりから2000年代のはじめ、この辺りでは大きな商業漁船によってダイナマイト、シアン化物、メッシュ網を使った漁が横行し、地元漁業が壊滅的な被害を受けていました。沿岸の村々にとって漁業は欠かせない産業であり、長年、村の漁師たちは家族を養うこの海を守るために闘ってきました。

2005年、漁師たちはアチモナン・ロータリークラブ（フィリピン、ケソン州）に助けを求めました。

そこで同クラブは、米国カリフォルニア州のマデラ・ロータリークラブと手を組み、ロータリーの補助金を利用して予算100万ドル以上のプロジェクトを開始。ロータリー歯車形の人工サンゴ礁をつくりました。この人工サンゴ礁には、サンゴが育つための十分な面積と、魚たちが住むためのたくさんの奥まった空間がありました。沿岸から600メートルのところにあるこの鉄筋コンクリート製歯車は、高さ4メートル、直径21メートルで、重さは数トンあります。

今日、フィリピン最大の人工サンゴ礁とうたわれるこの歯車は、サンゴに包まれ、アジ、クロハギ、フエダイ、ハタ、ハタタテダイ、ヒラメ、コバンアジ、バットフィッシュ、バラクーダなどの魚が集まってきます。数回の台風も耐え抜きました。

「サンゴ礁ができる前、一人1キログラム程度の魚しか穫れなかった」と話すのは、アチモナン・ロータリークラブのオカ・チュア元会長です。「今では1日に一人2キロぐらい穫れます」

この取り組みがもたらした恩恵は、魚の保護だけではありません。サンゴ礁のおかげで観光客が増え、村の経済もうるおいました。漁師たちは竹製のいかだを作り、ダイビングや魚の餌付けを楽しむ観光客に貸し出しています。

(フィリピンのロータリー地域雑誌に掲載された記事より)

「何かと『コミュニケーション』という慣用句を耳視している、それだけ難しいのだろう」

近藤博隆会員

多人数の目指すべき同一課題に対する意見をまとめることは難しい。だから、いつも、そのまとめ役のご苦勞に同情しつつも推移に関心を寄せているのです。私がそういうお役目のとき、いつも気にしているのが個人間のギャップ（GAP、食い違い部分）に「いい加減」（適当に気楽と言う意味でなく、満足できる結論）で割り切っていきたいのです。

そこで、このギャップを区分してみると各個人にとって、次のようですが、如何。

第1:「知らない、知らされない、又我関せずの状態」の場合

Handi gap ということ。

第2:「直感々度、感受力にも度づく違和感」の場合

Perpeption gap

第3:「常識上の違和感」の場合

Commonesense gap ということ

第4:「建前と本音の使い分け」の場合

Buffer arrangement gap ということ

以上、私見を書きましたが、英語で納得してほしいと言うのではなく、1945. 8. 15以後の日常会話の中にカタカナ語として外来語があまりにも慣用され違和感がなく常用されているので、私の一寸立ち止まってるつぶやきです。

以上

本日の例会にて、

ロータリー財団寄付	4名	53,000 円
米山特別寄付	0名	0 円

のご寄付をいただきました。
ありがとうございました。